子どもを孤独にしてはならない――こうした警句を使って、部屋の中にひとりおかれている子どもの写真がグラフに出ていたこともある。また、四階の破風のところに三―四歳の子どもが坐っているのを、消防士が梯子で助けにいく写真が、大きく新聞で報道されたこともある。お母さんが買物に出かけた留守に、窓から飛び出して、街路に面したその破風に下りてしまったのである。ちょっと身を動かせば生命はない。それでも、家族に年寄りもおらず、女中を傭うことはなかなかむずかしい現在において、子どもを家の中において出かける母親は非常に多いのであるし、求人難の西ドイツでは、女性すなわち母親も働きに出るという率が非常に高いので、どうしても子どもをひとりにしておく機会が多い。

ケルンで、幼稚園の主任の先生と話し合った記憶が蘇ってくる。保育を見せてもらったあとで、その主任の先生が「何か感じたことがありませんか？」と私に向かっていった。そこで私は「ドイツに来て以来、ずっと感じていたことですが子どもたちが非常にたくましく、独立心がさかんであるということです」と答えた。確かに、四、五歳ともなれば、我が国の子どもの三、四年生ぐらいの感じがする程、はきはきとものを答え、自分のことは自分で処理をし、母親と別れて病院に入院して来ても、――欧州の病院は、完全看護といって、母親が附き添うところはなく、週に一回の面会時間しか許されていない所が多い――それでも泣くようなことは殆んどない。我が国の子どもたちが、何とまあ赤ちゃんのようであろうか――私はそれと対比して、美しい気持をこめてドイツの子どもを批評したのである。

しかし、主任の先生の答えは、私の考えとはいささかちがっていた。

「確かに独立心はあります。しかし、余りに独立心が強すぎるのではないでしょうか。それが心配なのです」

この答えを、今日もなお、私は耳の底から拭うことができないでいる。

幼児の教育 第五十九巻 第七号

七月号 ©　定価五〇円

昭和三十五年六月二十五日印刷
昭和三十五年七月一日発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼発行者　津守　真

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五
印刷所　凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購読についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。